

予防鍼灸研究会（SGPAM）

## 第 21 回定例会抄録

テーマ：パーキンソン病の自律神経  
症状と鍼灸

2025年3月23日

## 目時

感染症後に起こった不定愁訴の鍼灸臨床 .....	盧嘉林2
パーキンソン病に対する鍼灸治療の効果について .....	福田晋平3
パーキンソン病の自律神経障害 .....	榊原隆次4

## 感染症後に起こった不定愁訴の鍼灸臨床

花梨堂鍼灸院 院長／三旗塾 講師 盧嘉林<sup>るかりん</sup>

【目的】現代では鍼灸の生理学的な解明が進んでいるがその効果の多様さに一介の鍼灸師として驚かされることも少なくない。今回は、感染症後の不定愁訴という数値化しにくいものに鍼灸施術が効果を発揮した一症例であり、西洋医学と相互に補完しあうことでより質の高い医療を提供できる可能性を示したい。【対象】60代女性、1ヶ月前に風邪を罹患。風邪の回復に伴って咳喘息・食欲不振・下痢・腹痛を発症し、その一週間後に睡眠障害となる。内科では、過敏性腸症候群（IBS）の疑いと自律神経失調との診断をうける。来院時には固形物を食べることができなくなり、腹部膨満感を感じていた。取穴は経穴の軟弱な場所を目安として選び、施術は1時間を目安として鍼は5～10分程度置鍼し、お灸は7～15壮程度を行う。【方法】腹部・足・背中の経穴に刺鍼を加え、腰部には火傷をしない程度のお灸を加える。【結果】5診目（1ヶ月後）において下痢はなく固形物も揚げ物などでなければ食べられるようになった。睡眠障害についても熟睡できる日が週に2度ほどある。主訴ではなかったが顎関節症様の症状も改善された。一方で腹痛は2週間に一度程度感じるがあった。【結論】原因がわからなくとも病態に応じて、即座に施術できるのが鍼灸の魅力でもある。本症例のように様々な症状があり、それが患者本人の不安感を助長する場合、鍼灸は有効であると考えられる。

(本文588字)

### 略歴

2014年 東洋医療専門学校鍼灸師学科卒業

2023年 放送大学卒業

2019年より『中医臨床』仮免鍼灸師からの脱皮コーナーを執筆中

2022年より「漢方研究の三旗塾」講師兼理事

## パーキンソン病に対する鍼灸治療の効果について

新潟医療大学 鍼灸健康学科 講師 福田晋平

日本社会の高齢化に伴い増加しているパーキンソン病は、中枢神経系疾患として、以前は積極的な鍼灸治療の対象ではなかった。しかし、急速に患者数は増加し、標準的な薬物治療で十分な満足が得られずに鍼灸を求め、治療院を訪れる患者も増えていることが予想される。実際に我が国における鍼灸治療を受療した経験のあるパーキンソン病患者は10～20%との報告がある。このため、超高齢社会の医療現場に立つ鍼灸師として、パーキンソン病は理解と対処が欠かせない疾患である。

パーキンソン病に対する鍼灸治療の臨床・基礎研究は2000年代から世界の主要国から報告が急増している。パーキンソン病の筋強剛や歩行障害といった運動症状、痛み、不眠といった非運動症状に対する鍼治療をはじめとし、鍼の抗炎症作用、神経保護作用等の治効機序を示唆する結果も報告されている。

本稿では、パーキンソン病の基礎的な内容から本疾患における鍼治療方法や評価方法、臨床的効果等について幅広く紹介したい。

(本文420字)

### 略歴

- 2007年 明治鍼灸大学（現、明治国際医療大学）鍼灸学部 卒業
- 2012年 明治国際医療大学大学院博士後期課程修了 博士号（鍼灸学）取得
- 2012年 明治国際医療大学 博士研究員
- 2015年 明治国際医療大学 保健・老年鍼灸学講座 助教
- 2021年 明治国際医療大学 鍼灸学部 鍼灸学科 講師
- 2023年 新潟医療福祉大学 鍼灸健康学科 講師

## パーキンソン病の自律神経障害

脳神経内科津田沼・同和会千葉病院 榊原隆次

パーキンソン病(PD)では運動障害と非運動障害(睡眠・自律神経・認知情動障害など)がしばしば同時にみられる。PDの自律神経障害の中では、膀胱と消化管の障害が多くみられる。膀胱障害は60%にみられ、過活動膀胱が多い。その病態として、膀胱抑制的に働く前頭前野-D1ドパミン系の障害が想定される。消化管の中で胃もたれ・食道胃逆流症状は30%、便秘は70%にみられる。消化管障害は、レボドパの吸収を遅延させ、高度になると悪性症候群、イレウス、宿便潰瘍をきたし緊急入院する場合もある。一方、運動障害のない消化管期の例が、近年捕えられるようになってきた。その病態として、主に腸管壁内神経叢の変性・レヴィー小体出現、一部中枢の病変が想定される。起立性低血圧は30%ほどにみられ、高度になると100 mmHgの低下がみられる場合もある。その病態として、細動脈周囲神経の変性・レヴィー小体出現が想定される。これらの自律神経障害は、高齢で認知症が目立つ症例(レヴィー小体型認知症)が多い。PDの自律神経障害は、患者の生活の質を阻害することから、積極的な治療介入が望まれる。

(本文476字)

### 略歴

1984年 旭川医科大学卒業

1984年 千葉大学脳神経内科

1997-98年 ロンドン大学神経研究所Queen Square客員研究員

2007年 東邦大学佐倉病院脳神経内科准教授 2016年同教授

2023年4月から現職

日本神経学会賞(2018年)、日本神経治療学会賞(2017年)など